

L1 ANSWER 2 OF 3 WPINDEX COPYRIGHT 2005 THE THOMSON CORP on STN
AN 2000-379018 [33] WPINDEX
DNC C2000-114946
TI Composition for improving physical conditions for usual life activity
containing essence of crude medicine formed as foodstuff, cosmetic or
medicine.
DC B04 D13 D21
PA (POKK) POLA CHEM IND INC
CYC 1
PI JP 2000103718 A 20000411 (200033) * 12 A61K007-00 <--
ADT JP 2000103718 A JP 1998-290019 19980928
PRAI JP 1998-290019 19980928
IC ICM A61K007-00
ICS A23L001-30; A61K007-48; A61K035-78; A61P001-00; A61P003-00;
A61P007-00; A61P007-10; A61P017-00; A61P043-00
AB JP2000103718 A UPAB: 20000712
NOVELTY - Composition for improving physical conditions for usual life
activity, comprising essence of crude medicine improving circulation and
essence of crude medicine showing acceleration of blood generation.
DETAILED DESCRIPTION - The compositions in the form of foodstuff,
cosmetics or medicines are also claimed.
USE - Physical conditions of human body is improved.
Dwg.0/0
FS CPI
FA AB; DCN
MC CPI: B12-M05; B14-R01; D03-H; D08-B

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-103718

(P 2 0 0 0 - 1 0 3 7 1 8 A)

(43) 公開日 平成12年4月11日(2000.4.11)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
A61K 7/00		A61K 7/00	K 4B018
			W 4C083
A23L 1/30		A23L 1/30	B 4C088
A61K 7/48		A61K 7/48	
A61P 1/00		31/00 601	

審査請求 未請求 請求項の数6 F D (全12頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平10-290019	(71) 出願人	000113470 ポーラ化成工業株式会社 静岡県静岡市弥生町6番48号
(22) 出願日	平成10年9月28日(1998.9.28)	(72) 発明者	小菅 卓夫 静岡県静岡市上足洗3丁目4-18
		(72) 発明者	福島 信 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ 化成工業株式会社戸塚研究所内
		(72) 発明者	三谷 信 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ 化成工業株式会社戸塚研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 生体活動改善用の組成物

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 本発明は、美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動の改善に止まらず、人体機能の発現に関与する物質群の補給システムを中心とした生体活動の更なる改善手段を提供することを課題とする。

【解決手段】 津液作用を有する生薬のエッセンス及びその活性成分から選ばれる1種乃至は2種以上と補血・活血作用を有する生薬のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上とを、健康食品、医薬、化粧品等の生体活動改善用の組成物に含有させる。本発明によれば、美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動の更なる改善手段を提供することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 津液作用を有する生薬のエッセンス及びその活性成分から選ばれる1種乃至は2種以上と補血・活血作用を有する生薬のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上とを含有することを特徴とする、生体活動改善用の組成物。

【請求項2】 津液作用を有する生薬が、ブクリョウ、セキブクリョウ、ブクシン、ブクリョウヒ、チョレイ、タクシャ、インチンコウ、モクボウイ、カンボウイ、カッセキ、ヨクイニン、トウカニン、トウカヒ、モクツウ、ツウソウ、トウシンソウ、クバク、ジフシ、ヘンチク、セキイ、シャゼンシ、シャゼンソウ、トウキヒ、ヒカイ、キンセンソウ、セキショウズ、ハンペンレン、ギョクマイシュ、シャジン、セイヨウジン、テンモンドウ、バクモンドウ、セッコク、ギョクチクビャクゴウ、ソウキセイ、カンレンソウ、ジョテイシ、ゴマ、コクズ、コクズイ、キバン、キバンキョウ、ベッコウ、ベッコウキョウ、マオウ、ケイシ、シソヨウ、ケイガイ、キョウカツ、コウホン、ビャクシ、サイシン、ショウキョウ、ソウハク、コウジュ、ゲンスイ、セイリュウカ、シンイ、ハッカ、ゴボウシ、センタイ、ソウヨウ、キクカ、ノギクカ、マンケイシ、フヘイ、モクゾク、コクセイソウ、カッコン、サイコ、ダイオウ、ボウショウ、バンシャヨウ、ロカイ、マシニン、イクリニン、ケンゴシ、カンスイ、ゲンカ、タイゲキ、ショウリク、ゾクズイシ、テイレキシ、ウキウコンピ、セッコウ、チモ、サンシシ、タンチクヨウ、カゴソウ、カンスイセキ、レンシン、ロコン、ケツメイシ、セイソウシ、ミツモウカ、ヤミョウシャ、ユウタン、セイテンキ、サイカク、ショウジオウ、ゲンジン、ボタンピ、シコン、ジコッピ、ビャクビ、ギンサイコ、オウゴン、オウレン、オウバク、リュウタン、クジン、シンピ、コオウレン、キンギンカ、レンギョウ、タイセイヨウ、バンランコン、ホコウエイ、シカジチョウ、バイショウソウ、ジュウヤク、キンシャトウ、センシンレン、ビャッカジャゼツソウ、ジタントウ、ハクトウオウ、アタンシ、バシケン、ハクセンピ、ドブクリョウ、カンジュウ、バボツ、サンズコン、ヤカン、ドゴシツ、ケンジン、キンカラン、カヨウ、リョクズ、セイカ、ハクヘンズ、ズケン、セイコウの何れかであることを特徴とする、請求項1に記載の生体活動改善用の組成物。

【請求項3】 補血・活血作用を有する生薬が、センキュウ、タンジン、ケイケツトウ、モウトウセイ、エンゴサク、ウコン、キョウオウ、ヤクモソウ、ジュウイシ、タ克蘭、リョウショウカ、ゲツキカ、サクバイカ、シカラク、セキシャク、トウニン、コウカ、バンコウカ、ガジュツ、サンリョウ、ニユウコウ、モツヤク、ゴシツ、オウフルギョウ、ロロツウ、リュウキド、ラクトクダ、シゼンドウ、ケツケツ、ソボク、キウセイシ、ホウセンカ、ゴレイシ、ガリョウシ、センザンコウ、スイ

テツ、シャチュウ、サンヨウケツ、ジュクジオウ、カシユウ、トウキ、ビャクシャク、アキョウ、クコシ、ソウジン、リュウガンニク、ゴオウ、獣胆、魚胆の何れかであることを特徴とする、請求項1又は2に記載の生体活動改善用の組成物。

【請求項4】 エッセンスが極性溶媒の抽出物及び／又はその溶媒除去物であることを特徴とする、請求項1～3の何れか一項に記載の生体活動改善用の組成物。

【請求項5】 生薬の有効成分であることを特徴とする、請求項1～4の何れか一項に記載の生体活動改善用の組成物。

【請求項6】 健康食品、医薬品又は化粧品であることを特徴とする、請求項1～5の何れか一項に記載の生体活動改善用の組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、生体活動の改善に好適な健康食品や化粧品、医薬品などの組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】津液作用は、漢方思想に於ける気、血、水の考え方の内、水に関するものであり、本発明者らにより、消化液、唾液、尿等の体液に関する新陳代謝を促進する働きであることが、明らかにされている。この働きは水分を媒体に行われており、この為、津液作用が美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用などの生体活動の改善作用と深く関連していることも明らかにされている。

【0003】又、補血及び活血作用については、酸素、栄養などのエネルギーを中心とする補給の活性化作用であることが既に知られている。

【0004】上記津液作用を有する物質と補血・活血作用を有する物質と組み合わせて、上記生体活動の改善のために投与することは全く行われていなかったし、かかる組合せによって、生体活動の改善作用が著しく向上することも全く知られていなかった。

【0005】一方、上記美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動の改善作用については、高齢化、老人化が進んでいる現代に於いては深刻な問題であり、この更なる改善は大きな問題であり、社会的にも望まれているものであった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、この様な状況を踏まえて為されたものであり、美肌作用やアトピー

性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動の改善に止まらず、人体機能の発現に関与する物質群の補給システムを中心とした生体活動の更なる改善手段を提供することを課題とする。

【0007】

【課題の解決手段】人体機能の発現に関与する物質を中心とした、人体に必要な物質は血管を通じて体内に運ばれることの重要性は、従来より認識はされているものの、血管より更に深部の組織への該物質の運搬は、漿液を介しての、濃度勾配による自然拡散によるものと認識されていた。本発明者らは、中国医学理論の更なる解析を通じ、血管外の組織や漿液においても能動的な必要物質の運搬が行われていることをつきとめた。即ち、従来の津液作用についての説明は、従来の技術に記述の如く、体内水分の体外への分泌促進による、必要部分への充分な水分の分配とされていたが、今回、新たに、この様な作用は津液作用の副次的作用に過ぎず、真の作用は目的は体内から体外に向かって形成された水の流れを媒体とした人体機能の発現に関与する物質の能動的な移送であることを、本発明者らはつきとめた。即ち、かかる人体機能発現関与物質を中心とした必要物質の身体全体への移送・分布は補血作用・活血作用のみならず、津液作用が加わって初めて達成されるのである。従って、この2種の作用を促進する物質が共に作用することが、人体の機能発現に重要であると理解できる。もし、補血・活血作用と津液作用の何れかが極度に不足した場合には、中国医学で言う陰虚、陽虚と言う病的な状態が生起する。即ち、補血、活血が正常で津液作用が極度に不足した場合、言い換えれば、血管を通じては充分な必要物質の移送・分配が行われているのに、血管外での移送・分配が不十分で必要物質が不足した場合には、陰虚と言う病態になり、逆に体内から体外への水分放出が極度に促進されていて血管から移送・分配される物質が垂れ流し状態になり、血管からの必要物質の供給が間に合わなくなった場合には、陽虚には陽虚という病態になることが判明した。かくの如く、補血・活血作用と津液作用とは、両者が同時に促進されることが、人体にとって極めて有用であることを見出したのである。この新しい、知見に基づき、本発明者らは、皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通改善作用等の従来の津液作用で期待された生体活動の更なる改善を具現するに止まらず、人体機能の全ての発現に必要な物質の、人体全体への満足すべき供給促進手段を見出したのである。即ち、津液作用を有する生薬のエッセンス及びその活性成分から選ばれる1種乃至は2種以上と補血・活血作用を有する生薬のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上とを組み合わせ使用

することにより、この様な改善が可能であることを見出し発明を完成させるに至った。更に加えて、津液作用と補血・活血作用の組合せにより、生体内に於ける各種生理活性物質のディストリビューションの改善作用も有することから、上記以外の生体活動の改善作用をも発揮する事をも見出し、発明を発展させた。以下、発明の実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【0008】

【発明の実施の形態】(1)本発明で用いる津液作用を有する生薬のエッセンス、その有効成分
本発明で用いる津液作用を有する生薬のエッセンスやその有効成分としては、漢方生薬の分類で、利水▲浸▼湿薬、▲沙▼下薬、解表薬、清熱薬、補陰薬に分類される生薬のエッセンスや有効成分が好ましく例示できる。具体的な生薬名としては、ブクリョウ、セキブクリョウ、ブクシン、ブクリョウヒ、チョレイ、タクシャ、インチンコウ、モクボウイ、カンボウイ、カッセキ、ヨクイニン、トウカニン、トウカヒ、モクツウ、ツウソウ、トウシンソウ、クバク、ジフシ、ヘンチク、セキイ、シャゼンシ、シャゼンソウ、トウキヒ、ヒカイ、キンセンソウ、セキショウズ、ハンペンレン、ギョクマイシュ、シャジン、セイヨウジン、テンモンドウ、バクモンドウ、セッコク、ギョクチクビャクゴウ、ソウキセイ、カンレンソウ、ジョテイシ、ゴマ、コクズ、コクズイ、キバン、キバンキョウ、ベッコウ、ベッコウキョウ、マオウ、ケイシ、シソヨウ、ケイガイ、キョウカツ、コウホン、ビャクシ、サイシン、ショウキョウ、ソウハク、コウジュ、ゲンスイ、セイリュウカ、シンイ、ハッカ、ゴボウシ、センタイ、ソウヨウ、キクカ、ノギクカ、マンケイシ、フヘイ、モクゾク、コクセイソウ、カッコン、サイコ、ダイオウ、ボウショウ、バンシャヨウ、ロカイ、マシニン、イクリニン、ケンゴシ、カンスイ、ゲンカ、タイゲキ、ショウリク、ソクズイシ、テイレキシ、ウキウコンビ、セッコウ、チモ、サンシシ、タンチクヨウ、カゴソウ、カンスイセキ、レンシン、ロコン、ケツメイシ、セイソウシ、ミツモウカ、ヤミョウシャ、ユウタン、セイテンキ、サイカク、ショウジョウ、ゲンジン、ボタンピ、シコン、ジコッピ、ビャクビ、ギンサイコ、オウゴン、オウレン、オウバク、リュウタン、クジン、シンピ、コオウレン、キンギンカ、レンギョウ、タイセイヨウ、バンランコン、ホコウエイ、シカジチョウ、バイショウソウ、ジュウヤク、キンシャトウ、センシンレン、ビャッカジャゼツソウ、ジタントウ、ハクトウオウ、アタンシ、バシケン、ハクセンビ、ドブクリョウ、カンジュウ、バボツ、サンズコン、ヤカン、ドゴシツ、ケンジン、キンカラン、カヨウ、リョクズ、セイカ、ハクヘンズ、ズケン、セイコウ等が挙げられ、エッセンスとしては、生薬を粉碎、細切した加工物、生薬乃至はその加工物を溶媒で抽出した抽出物、抽出物から溶媒を除去した溶媒除去物などが例示でき、これらの内で

は、抽出物及び／又はその溶媒除去物が好ましく、かかる抽出に用いる溶媒としては、極性溶媒、中でも水乃至はアルコールが特に好ましい。抽出は通常の方法に従って行えば良く、例えば、生薬に対して1～10倍量の溶媒を加え、室温であれば数日間、沸点付近の温度であれば数時間浸漬すればよい、これを冷却し必要に応じて濾過などをすれば抽出物が得られる。溶媒除去は、減圧留去、乾燥、凍結乾燥などを用いればよい。又、その有効成分としては、既に知られているものでよく、例えば、カッコンやタントウシの有効成分であるイソフラボン類、ダイオウやロカイの有効成分であるアントラキノン類などが好ましく例示できる。これらの内では、本発明では生薬のエッセンスを用いるのが好ましい。これは、有効成分以外の成分による組合せ効果があるためである。

【0009】(2) 本発明で用いる補血・活血作用を有する生薬のエッセンス、その有効成分

本発明で用いる補血・活血作用を有する生薬のエッセンスとしては、漢方の生薬分類に於ける、補血・活血薬、補血薬の分類に分類される生薬のエッセンスが好ましく、具体的な生薬名としては、例えば、センキュウ、タンジン、ケイケツトウ、モウトウセイ、エンゴサク、ウコン、キョウオウ、ヤクモソウ、ジュウイシ、タクラン、リョウショウカ、ゲツキカ、サクバイカ、シカラク、セキシヤク、トウニン、コウカ、バンコウカ、ガジュツ、サンリョウ、ニュウコウ、モツヤク、ゴシツ、オウフルギョウ、ロロツウ、リュウキド、ラクトクダ、シゼンドウ、ケツケツ、ソボク、キュウセイシ、ホウセンカ、ゴレイシ、ガリョウシ、センザンコウ、スイテツ、シャチュウ、サンヨウケツ、ジュクジオウ、カシュウ、トウキ、ビヤクシャク、アキョウ、クコシ、ソウジン、リュウガンニク、ゴオウ、獣胆、魚胆等が好ましく挙げられ、エッセンスとしては、生薬を粉碎、細切した加工物、生薬乃至はその加工物を溶媒で抽出した抽出物、抽出物から溶媒を除去した溶媒除去物などが例示でき、これらの内では、抽出物及び／又はその溶媒除去物が好ましく、かかる抽出に用いる溶媒としては、極性溶媒、中でも水乃至はアルコールが特に好ましい。抽出は通常の方法に従って行えば良く、例えば、生薬に対して1～10倍量の溶媒を加え、室温であれば数日間、沸点付近の温度であれば数時間浸漬すればよい、これを冷却し必要に応じて濾過などをすれば抽出物が得られる。溶媒除去は、減圧留去、乾燥、凍結乾燥などを用いればよい。又、これらの有効成分としては、胆汁酸、胆汁アルコール又はその誘導体などが例示できる。これらの内では、本発明では生薬のエッセンスを用いるのが好ましい。これは、有効成分以外の成分による組合せ効果があるためである。

【0010】(3) 本発明の生体活動改善用の組成物

本発明の生体活動改善用の組成物は、上記津液作用を有

する生薬のエッセンス及びその有効成分から選ばれる1種乃至は2種以上と補血・活血作用を有する生薬のエッセンス及びその有効成分から選ばれる1種乃至は2種以上とを含有することを特徴とする。この2種のエッセンスを組み合わせることにより、美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動をより一層改善する作用に優れるばかりでなく、難治とされている糖尿病、肝臓病、高血圧等も、人体がそれらの疾病の改善のために発揮する諸機能の発現に必要な物質を充分に供給することによって、結果としてそれらを改善する作用を有する。更に、生体に有害な環境ホルモンなどの体外への排出を高める作用も有する。環境ホルモンに関しては、現在のところ生体側の防御手段がないため、この技術により、かかる生体側の防御が可能になるため非常に好適である。これは、上記組合せにより、生体内に於ける各種生理活性物質のディストリビューションの改善作用を発現するからである。本発明の組成物としては、化粧料、健康食品、医薬品等が例示でき、これらの内では化粧料と健康食品が特に好ましい。これは、上記生薬のエッセンスやその有効成分の作用が緩和で長期間投与することが出来、しかも長期間の投与が好ましいためである。

【0011】本発明の生体活動改善用の組成物では、上記津液作用を有する生薬のエッセンス及びその有効成分から選ばれる1種乃至は2種以上と補血・活血作用を有する生薬のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上の他に、前記組成物で通常使用される任意成分を含有することが出来る。かかる任意成分としては、例えば、化粧料であれば、ワセリンやマイクロクリスタリンワックス等のような炭化水素類、ホホバ油やゲイロウ等のエステル類、牛脂、オリーブ油等のトリグリセライド類、セタノール、オレイルアルコール等の高級アルコール類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸、グリセリンや1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、非イオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、エタノール、カーボポール等の増粘剤、防腐剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、色素、粉体類等が好ましく例示でき、健康食品であれば、賦形剤、結合剤、被覆剤、滑沢剤、糖衣剤、崩壊剤、増量剤、矯味矯臭剤、乳化・可溶化・分散剤、安定剤、pH調整剤、等張剤等が好ましく例示できる。これらを常法に従って処理することにより、本発明の生体活動改善用の組成物を製造することが出来る。本発明の組成物に於ける上記生薬のエッセンスやその有効成分の好ましい含有量は、化粧料に於いては0.001～10重量%で有り、更に好ましくは0.01～5重量%であり、健康食品に於いては、0.01～50重量%であり、更に好ましくは、

0. 1～30重量%である。又、医薬品に於いては法令に従って含有量を定めればよい。

【0012】

【実施例】以下に実施例を挙げて更に詳細に説明を加えるが、本発明がこれら実施例にのみ限定を受けないことは言うまでもない。

【0013】＜実施例1＞津液作用を有する生薬である、ブクリョウ、セキブクリョウ、ブクシン、ブクリョウヒ、チョレイ、タクシャ、インチンコウ、モクボウイ、カンボウイ、カッセキ、ヨクイニン、トウカニン、トウカヒ、モクツウ、ツウソウ、トウシンソウ、クバク、ジフシ、ヘンチク、セキイ、シャゼンシ、シャゼンソウ、トウキヒ、ヒカイ、キンセンソウ、セキショウズ、ハンペンレン、ギョクマイシュ、シャジン、セイヨウジン、テンモンドウ、バクモンドウ、セッコク、ギョクチクビャクゴウ、ソウキセイ、カンレンソウ、ジョテイシ、ゴマ、コクズ、コクズイ、キバン、キバンキョウ、ベッコウ、ベッコウキョウ、マオウ、ケイシ、シソヨウ、ケイガイ、キョウカツ、コウホン、ビャクシ、サイシン、ショウキョウ、ソウハク、コウジュ、ゲンスイ、セイリュウカ、シンイ、ハッカ、ゴボウシ、センタイ、ソウヨウ、キクカ、ノギクカ、マンケイシ、フヘイ、モクソク、コクセイソウ、カッコン、サイコ、ダイオウ、ボウショウ、バンシャヨウ、ロカイ、マシニン、イクリニン、ケンゴシ、カンスイ、ゲンカ、タイゲキ、ショウリク、ゾクズイシ、テイレキシ、ウキョウコンビ、セッコウ、チモ、サンシシ、タンチクヨウ、カゴソウ、カンスイセキ、レンシン、ロコン、ケツメイシ、セイソウシ、ミツモウカ、ヤミョウシャ、ユウタン、セイテンキ、サイカク、ショウジョウ、ゲンジン、ボタンビ、シコン、ジコッピ、ビャクビ、ギンサイコ、オウゴ

ン、オウレン、オウバク、リュウタン、クジン、シンビ、コオウレン、キンギンカ、レンギョウ、タイセイヨウ、バンランコン、ホコウエイ、シカジチョウ、バイショウソウ、ジュウヤク、キンシャトウ、センシンレン、ビャッカジャゼツソウ、ジタントウ、ハクトウオウ、アタンシ、バシケン、ハクセンビ、ドブクリョウ、カンジュウ、バボツ、サンズコン、ヤカン、ドゴシツ、ケンジン、キンカラン、カヨウ、リョクズ、セイカ、ハクヘンズ、ズケン及びセイコウを用いて、生薬のエッセンスを作成した。即ち、生薬を粉碎し、これに5倍量の50%エタノール水溶液を加え、2時間加熱還留した。濾過して不溶物を除去した後、減圧濃縮してエッセンスを得た。又、補血・活血作用を有する生薬であるセンキュウを同様に処理し、エッセンスを得た。これらのエッセンスを用いて、ラットに於ける利尿作用を調べた。即ち、1群5匹のラットを用い、代謝ケージでエッセンスの投与・非投与での尿量の変化を見た。エッセンスの投与量は、経口で2mg/匹とした。即ち、48時間代謝ケージで予飼育をした後、24時間非投与での尿量を測定し、エッセンスを投与した後、更に24時間投与後の尿量を測定した。これらの数値より、次式に従って尿増加率を算出した。結果を表1～6に示す。これより、補血・活血生薬のエッセンスであるセンキュウのエッセンスを共に投与することにより、津液作用が増強されていることがわかる。

(式) 尿量増加率(%) = [投与後24時間の総尿量 - 非投与24時間の総尿量] / (非投与24時間の総尿量) * 100

【0014】

【表1】

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
—	—1	0
ブクリョウ	15	8
セキブクリョウ	23	9
ブクシン	19	5
ブクリョウヒ	25	13
チョレイ	31	16
タクシャ	21	14
インチンコウ	27	9
モクボウイ	17	5
カンボウイ	18	7
カッセキ	9	3
ヨクイニン	22	12
トウカニン	21	10
トウカヒ	18	6
モクツウ	19	4
ツウソウ	27	9
トウシンソウ	25	14
クバク	21	8
ジフシ	29	17
ヘンチク	24	14
セキイ	23	11
シャゼンシ	26	9
シャゼンソウ	25	11
トウキヒ	22	7
ヒカイ	14	4

【0015】

【表2】

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
キンセンソウ	32	21
セキショウズ	24	13
ハンペンレン	16	3
ギョクマイシュ	18	4
マオウ	9	2
ケイシ	8	3
シソヨウ	9	3
ケイガイ	7	1
ボウフウ	7	0
キョウカツ	9	1
コウボン	12	2
ビャクシ	9	4
サイシン	10	3
ショウキョウ	19	8
ソウハク	9	1
コウジュ	13	3
ゲンスイ	22	8
セイカリユウ	16	7
シンイ	19	9
ハッカ	15	13
ゴボウシ	27	8
センタイ	13	6
ソウヨウ	16	7
キクカ	15	4
ノギクカ	9	4

【0016】

【表3】

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
マンケイシ	21	12
タントウシ	11	5
フヘイ	16	7
モクゾク	23	9
コクソウセイ	20	6
カッコン	24	7
サイコ	12	9
ショウマ	11	7
シャジン	23	7
セイヨウジン	22	6
テンモンドウ	24	11
バクモンドウ	27	13
セッコク	19	5
ギョクチクビャクゴウ	16	4
ソウキセイ	20	4
カンレンソウ	15	9
ジョテイシ	26	18
ゴマ	17	9
コクズ	23	11
コクズイ	18	13
キバン	16	7
キバンキョウ	18	8
ベッコウ	13	5
ベッコウキョウ	16	10

【0017】

【表4】

13

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
ダイオウ	26	18
ボウショウ	18	5
ロカイ	36	23
バンシャヨウ	28	13
マシニン	12	7
イクリニン	14	5
ケンゴシ	13	4
カンスイ	15	6
ゲンカ	16	5
タイゲキ	13	4
ショウリク	15	4
ゾクズイシ	42	21
テイレキシ	31	12
ウコンキュウビ	23	7
セッコウ	13	5
チモ	21	8
サンシシ	25	7
タンチクヨウ	22	9
カゴソウ	17	9
カンスイセキ	17	11
レンシン	22	7
ロコン	21	11
ケツメイシ	23	9
セイソウシ	17	7
ミツモウカ	12	6

【0018】

【表5】

14

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
ヤミョウシャ	22	10
ユウタン	23	14
セイテンキ	19	12
サイカク	19	14
ショウジオウ	18	13
ゲンジン	15	8
ボタンビ	15	8
シコン	16	7
ジコッピ	16	6
ビャクビ	17	7
ギンサイコ	16	5
オウゴン	33	12
オウレン	27	13
オウバク	24	11
リュウタン	24	12
クジン	22	13
シンピ	21	12
コオウレン	22	10
キンギンカ	18	11
レンギョウ	16	12
タイセイヨウ	22	12
バンランコン	21	13
ホコウエイ	22	11
シカジチョウ	18	9
ハイショウソウ	16	7

【0019】

【表6】

津液作用を有するエッセンス	センキュウ有り	センキュウなし
ジュウヤク	21	13
キンシャトウ	22	10
センシンレン	17	12
ハクトウオウ	20	15
アタンシ	17	10
バシケン	14	10
ハクセンビ	12	4
ドブクリョウ	18	12
カンジュツ	14	3
パボツ	18	7
サンズコン	19	11
ヤカン	21	13
ドゴシツ	18	11
ケンジン	19	12
キンカラン	17	12
カヨウ	18	11
リョクズ	21	11
セイカ	18	13
ハクヘンズ	17	12
ズケン	15	9
セイコウ	17	11

【0020】＜実施例2＞補血・活血作用を有する、タンジン、ケイケツトウ、モウトウセイ、エンゴサク、ウコン、キョウオウ、ヤクモソウ、ジュウイシ、タ克蘭、リョウショウカ、ゲッキカ、サクバイカ、シカラク、セキシヤク、トウニン、コウカ、バンコウカ、ガジュツ、サンリョウ、ニュウコウ、モツヤク、ゴシツ、オウフルギョウ、ロロツウ、リュウキド、ラクトクダ、シゼンドウ、ケッケツ、ソボク、キュウセイシ、ホウセンカ、ゴレイシ、ガリョウシ、センザンコウ、スイテツ、シャチュウ、サンヨウケツ、ジュクジオウ、カシュウ、トウキ、ビヤクシャク、アキョウ、クコシ、ソウジン、リュウガンニクを実施例1と同様に処理して、エッセンスを作成した。このものと津液作用を有する生薬である、チョレイのエッセンスとの組合せによる、利尿作用を実施例1と同様に調べた。結果を尿量増加率として、表7、8に示す。これより、何れの補血・活血作用を有する生薬もチョレイの津液作用の効果である利尿作用を相乗的に高めていることがわかる。

【0021】

【表7】

活血作用を有する生薬	チョレイ有り	チョレイなし
—	16	0
タンジン	23	1
ケイケツトウ	26	0
モウトウセイ	19	0
エンゴサク	28	0
ウコン	27	0
キョウオウ	35	2
ヤクモソウ	29	1
ジュウイシ	30	1
タ克蘭	32	1
リョウショウカ	31	1
ゲッキカ	29	0
サクバイカ	28	1
シカラク	28	0
セキシヤク	31	2
トウニン	35	4
コウカ	29	2
バンコウカ	21	0
ガジュツ	31	0
サンリョウ	25	0
ニュウコウ	20	0
モツヤク	19	0
ゴシツ	22	0
オウフルギョウ	23	0
ロロツウ	29	1

ブクリョウヒエキス

ガジュツエキス

硫酸化トレハロースナトリウム

ヒアルロン酸ナトリウム

【0022】

【表8】

活血作用を有する生薬	チョレイ有り	チョレイなし
リュウキド	29	0
ラクトクダ	30	0
シゼンドウ	18	0
ケッケツ	20	0
ソボク	32	5
キュウセイシ	26	1
ホウセンカ	29	1
ゴレイシ	27	0
ガリョウシ	22	0
センザンコウ	19	0
スイテツ	21	0
シャチュウ	23	0
サンヨウケツ	28	3
ジュクジオウ	33	5
カシュウ	27	1
トウキ	29	3
ビヤクシャク	27	2
アキョウ	26	0
クコシ	22	1
ソウジン	25	2
リュウガンニク	26	1

【0023】＜実施例3＞下記に示す処方に従って、本発明の化粧料である、化粧水を作成した。即ち、処方成分を、室温で攪拌可溶化し、濾過して化粧水を得た。

0.1重量部

0.1重量部

0.1重量部

0.1重量部

17

グリセリン
1, 3-ブタンジオール
エタノール
水
メチルパラベン

【0024】＜実施例4＞実施例3の化粧水を用いて、更年期障害に対する作用を調べた。即ち、更年期障害によって肌トラブルを起こしている人1群5名、計20名を用いて、この肌トラブルに対する化粧料の効果を調べた。第1群には実施例3の化粧料を、第2群には実施例3の化粧料のブクリョウエキスを水に置換したものを、第3群にはガジュツエキスを水に置換したものを、第4群には実施例3の化粧料のブクリョウエキスとガジュツエキスを水に置換したものを渡し、連日30日間使用してもらい、肌トラブルの改善の程度を、++：著しい改善、+：明らかな改善、±：僅かな改善、-：不変の基準に従って評価した。結果を出現例数として、表9に示す。これより、本発明の組成物である化粧料は優れた相乗効果を有することがわかる。又、同様に更年期に於ける情緒の不安定の改善効果について同様にアンケートにより調べた。結果を表10に出現例数として示す。情緒の安定化についても、肌トラブルと同様の結果が得られていることがわかる。

【0025】

【表9】

群	++	+	±	-
第1群	5			
第2群	1	3	1	
第3群			5	
第4群				5

トチュウエキス
ホウセンカエキス
硫酸化トレハロースナトリウム
ヒアルロン酸ナトリウム
グリセリン
1, 3-ブタンジオール
エタノール
水
メチルパラベン

【0028】＜実施例6＞下記に示す処方に従って、本発明の組成物である健康食品を作成した。即ち、処方成

ヘンチクエキス
トウキヒエキス
ウコンエキス
モウトウセイエキス
ツキミソウオイル
オリーブオイル

【0029】＜実施例7＞実施例6の健康食品の効果をマウスを用いて調べた。即ち、5週齢のICRマウス

18

5 重量部
5 重量部
10 重量部
79.4 重量部
0.2 重量部

【0026】

【表10】

群	++	+	±	-
第1群	5			
第2群	1	4		
第3群			3	2
第4群				5

【0027】＜実施例5＞下記に示す処方に従って、本発明の化粧料である、化粧水を作成した。即ち、処方成分を、室温で攪拌可溶化し、濾過して化粧水を得た。このものも、実施例3の化粧水同様優れた抗更年期障害作用を有していた。

1 重量部
1 重量部
0.1 重量部
0.1 重量部
5 重量部
5 重量部
10 重量部
77.6 重量部
0.2 重量部

分を良く混練りし、これをゼラチンカプセルに充填し、健康食品を得た。

10 重量部
10 重量部
10 重量部
10 重量部
30 重量部
30 重量部

(雄性) 1 群 3 匹に¹⁴C 標識フタル酸ジオクチルを 1 mg/Kg (100 μ Ci/Kg) を経口投与し、代謝ケージに入れ、その 4 時間後に実施例 6 の健康食品のカプセル充填前の組成物及びその改変品を 10 mg/Kg 経口投与し、フタル酸ジオクチル投与後 8 時間の間に代謝されるフタル酸ジオクチルの量を放射強度として測定した。動物は第 1 群がフタル酸ジオクチルと実施例 6 の組成物のヘンチクエキス、トウキエキス、ウコンエキス、モウトクセイエキスをオリーブオイル (コントロール) に置換したものを投与し、第 2 群がフタル酸ジオクチルと実施例 6 の組成物 (実施例 6) を投与し、第 3 群が実施例 6 の組成物のヘンチクエキス、トウキエキスをオリーブ油に置換したもの (比較例 6) を投与し、第 4 群が実施例 6 の組成物のウコンエキスとモウトクセイエキスをオリーブ油に置換したもの (比較例 6') を投与した。結果を表 11 に放射強度の回収率として示す。これより、本発明の組成物が著しく環境ホルモンであるフタル酸ジオクチルの排出を促進していることがわかる。これは、血液からのフタル酸ジオクチルの代謝排泄を活血作用を有する成分が促進し、組織細部にわたったフタル酸ジオクチルの代謝排泄を津液成分が促進しているからと考えられる。

【0030】

【表 11】

投与サンプル	放射強度の回収率
コントロール	43%
実施例 6	68%
比較例 6	49%
比較例 6'	54%

シムノールサルフェート (魚肝の有効成分)

10 重量部

ダイズイン (大豆の有効成分)

20 重量部

魚肝油

70 重量部

【0034】

【発明の効果】本発明によれば、美肌作用やアトピー性皮膚炎、湿疹、皮膚真菌症、色素沈着症、尋常性乾癬、老人性乾皮症、老人性角化腫、火傷などの皮膚疾患の改

【0031】＜実施例 8＞実施例 7 と同じサンプルを用いて、更年期障害に悩むパネラー 1 群 10 名、計 40 名を用いて、更年期障害に対するこの健康食品の作用を調べた。即ち、これらのサンプルを 1 日 2 回 100 mg づつ 1 カ月間摂取し、更年期障害の症状の改善を ++ : 著しい改善、+ : 明らかな改善、± : 僅かな改善、- : 改善なしの基準で判定してもらった。結果を出現例数として、表 12 に示す。これより、本発明の組成物である健康食品は、津液作用を高めて更年期障害を改善していることがわかる。

【0032】

【表 12】

サンプル	++	+	±	-
コントロール			3	7
実施例 6	5	5		
比較例 6			7	3
比較例 6'	1	4	3	2

【0033】＜実施例 9＞下記に示す処方に従って、健康食品を作成した。即ち、処方成分を良く混練りし、ゼラチンカプセルに 100 mg 充填密封し、健康食品を得た。このものは、実施例 7 と同様の検討に於いて 73 % の放射性回収を得た。

善作用、発毛促進作用、発汗促進作用、消化液分泌促進作用、利尿作用、便通促進作用等の生体活動の更なる改善手段を提供することができる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード (参考)

A 61 P 3/00

A 61 K 31/00

603

7/00

607

7/10

607 E

17/00

617

43/00

643 D

A 61 K 35/78

35/78

W

(72) 発明者 松本 克夫
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ
化成工業株式会社戸塚研究所内
(72) 発明者 西森 康友
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ
化成工業株式会社戸塚研究所内
(72) 発明者 河合 充夫
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ
化成工業株式会社戸塚研究所内

F ターム (参考) 4B018 LB10 LE02 MD61 ME02 MF01
4C083 AA071 AA111 AA112 AA121
AA122 AB351 AB361 AB431
AC102 AC122 AC482 AD212
AD332 CC01 CC04 DD23
EE12 EE13 EE50 FF05
4C088 AA02 AA04 AB04 AB12 AB14
AB15 AB16 AB18 AB22 AB23
AB26 AB29 AB30 AB32 AB33
AB34 AB35 AB37 AB38 AB39
AB40 AB41 AB43 AB46 AB47
AB48 AB52 AB58 AB59 AB62
AB64 AB65 AB67 AB71 AB72
AB73 AB77 AB78 AB79 AB81
AB83 AB84 AB85 AB86 AB87
AB89 AD01 AD03 AD07 AD09
AD12 AD13 AD14 BA03 BA05
BA06 CA03 MA07 MA11 NA14